

## 2022年3月9日 新潟県観光局 妹尾観光局長インタビュー



妹尾 浩志（せのお ひろし）

兵庫県出身

- ・平成17年3月 東京大学法学部卒業
- ・平成17年4月 国土交通省入省

・平成31年4月

国土交通省海事局外航課長補佐

・令和2年7月

新潟県観光局副局長

・令和3年4月

新潟県観光局長



### 神田副会長)

本日は年度末また議会開催中にも関わらず、妹尾局長におかれましては貴重な時間をお取りいただきありがとうございます。貴県はスノースポーツのみならずスノーリゾート分野におかれましてもわが国を代表する観光県です。局長の思いや課題意識などを幅広くお聞かせいただければ幸いです。それでは、岩尾専務のほうからお伺いをさせていただきます。

### 岩尾専務)

それでは私のほうから何点かお伺いさせていただきます。

本日は県議会開催中にもかかわらず、貴重なお時間を拝借いたしましてありがとうございます。インタビューにお伺いしたかったのですが、コロナの関係もあり、残念ですがリモートでインタビューをさせていただきます。このインタビューの狙いは、コロナ下でありますが、スノービジネス界に向けて明るい話題を提供したいこと、貴県の冬の取り組みを発信することにより各地のスノーリゾートの参考にしていただきたいこと、また、スノースポーツ等を地域の活性化につなげる方策の紹介ができればと思っています。よろしくお願ひします。

まず、貴県における観光の位置づけ、政策についてお伺いします。

### 妹尾局長)

新潟県では、「ガストロノミー（新潟の豊かな食文化）」と「スノーリゾート新潟」を観光の二本柱にしており、冬季の観光客の誘致に大変力を入れています。スキーやスノーボードはもちろんですが、豊富な温泉や酒蔵などを含め、雪国の食事、生活文化等の雪国の魅力を、「スノーリゾート新潟」として届けていきたいと思っています。



苗場スキー場（湯沢町）

岩尾専務)

スキー場の数や入込数はいかがでしょうか

妹尾局長)

県内スキー場は、令和3年度シーズンは55箇所で営業しています。近年の入込状況は、ここ2シーズンは暖冬少雪やコロナの影響がありましたので250万人ほどですが、それ以前は500万人前後の方に来訪いただきました。

岩尾専務)

インバウンドの状況はいかがでしょうか

妹尾局長)

感染症拡大前の令和元年の新潟県の延べ宿泊者数は約1千万人泊で、このうち外国人は50万人泊に届かないくらいですから、割合でも4~5パーセントです。足下の状況は厳しいですが、まだまだ増えていく可能性があると思っています。宿泊者数が多いのは、台湾、中国、香港、オーストラリアの順です。季節的には、12月から3月が約6割を占めていて、湯沢や妙高などでの、雪遊びを含めた冬季のスキー誘客が中心となっています。

岩尾専務)

スキーバブルともいえる最盛期と比べることが良いかどうかはわかりませんが、スキーやスノーボードの人口は低減して来ています。インバウンドと合わせ、やはり、スキーポートのすそ野を広げることが大切だと思います。スキー発祥の地であり、スキー県でもある貴県としてどのような対策を取られているのでしょうか。



石打丸山スキー場 スノーガーデン（南魚沼市）

妹尾局長)

スノーリゾートを魅力として打ち出す新潟県として、すそ野を広げていくことは重要と考えています。新潟県では、県内の小学生向けのスキーレッスンや日帰りツアーに対する補助、学校の先生のスキーレッスンなどを行っています。また、修学旅行の誘致も行っており、首都圏のみならず、九州などからもスキー修学旅行で来訪いただいている。

## 岩尾専務)

スキー修学旅行のお話に関連いたしますが、新型コロナウイルス感染症の蔓延防止等重点措置の全国的な適用の影響でスキー修学旅行は昨年に引き続きほとんどすべてが中止、延期となっており、その比重の高い地域にとっては極めて厳しい状況となっています。所管が違うことは承知していますが、コロナ対策で、15兆円もの地方創生臨時交付金が交付されています。コロナで飲食業界など非常に厳しい状況におかれていますが、スキー業界も移動の自粛でやはり厳しい状況です。貴県として何か対策が取られているのでしょうか。

## 妹尾局長)

新潟県では、新型コロナで落ち込んだ需要喚起のため、「にいがたスキーONI割キャンペーン」といって、スキー場のリフト券、レンタル、雪遊びなどの割引を支援しています。また、スキー場が行う感染防止対策や、新たな需要獲得の取り組みへの支援を今年度実施しています。



にいがたスキーONI割キャンペーン

## 岩尾専務)

インバウンドに戻りますが、長期滞在型の場合、スキーを楽しむだけではなく、県を越えた広域観光もされているようです。この対応はいかがでしょうか。

## 妹尾局長)

広域連携の取組については、長野県と連携してスノーリゾートの魅力発信を行うなど近隣県と誘客促進を積極的に図っています。また、観光庁の「国際競争力の高いスノーリゾート形成事業」に湯沢エリアと妙高エリアが採択され、取組を進められていますが、県としても、共通リフト券の広域化などの取組みへの支援を新たに実施し、インバウンドの方々の滞在日数の増加につなげていきたいと思っています。

神田副会長) —————

インバウンドですが、主に新潟空港を活用されているのでしょうか。

妹尾局長) —————

インバウンドのボリュームとしては、新潟空港経由よりも首都圏からの来県が多いです。東京からのアクセスの良さはアピールポイントですので、首都圏など関東エリアの自治体とも連携し、広域観光の発信に取り組んでいきたいです。

河野常務) —————

長野県の立場で申し上げれば、新潟、長野が連携してインバウンドの誘致を進めていくことが効果だと思います。また、オールジャパンで、まず、海外に名前が売れているニセコに来ていただき、その上で、新潟や長野等、本州のスキー場を売り込んでゆくということも有効でしょう。観光庁も冬場の観光閑散期にとって日本のパウダースノーは貴重な観光資源であることを認識されていますので、雪あり県として、皆が協力して広域的な観光ルート作っていければと思います。コロナが収束したらすぐに動けるような体制づくりが大切です。



ニューグリンピア津南 スカイランタン（津南町）

妹尾局長) —————

地方の降雪地帯にとってスキーをはじめとする冬季観光は大事な産業です。

地域の振興のため、スキーヤーやスノーボーダーに楽しんでもらうことに加え、スキーやスノーボードをしない人も雪や雪に育まれたコンテンツを楽しんでもらう、「スノーリゾート」づくりが大事な視点だと思います。

インバウンドの方でも、滑ることが大好きな方がいれば、雪遊びを楽しみたい人もいますし、新潟県も極上のパウダースノーを楽しむことができますので、訪日観光客の受入再開に向け、地域の関係者と協力して、また広域で連携しつつ、「スノーリゾート新潟」の魅力を継続して伝えていきたいです。

岩尾専務) —————

本日は貴重なお話を伺いさせていただきありがとうございました。当協議会といたしましては、スノースポーツの振興、スノーリゾート地域の活性化に、微力ではありますが取り組んでまいりますので、今後ともよろしくお力添えをお願いいたします。